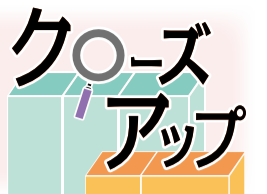


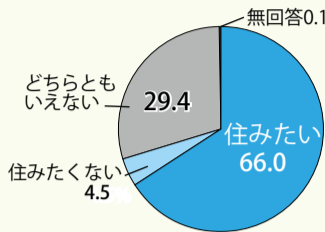
# 第14回市政世論調査の結果をお知らせします



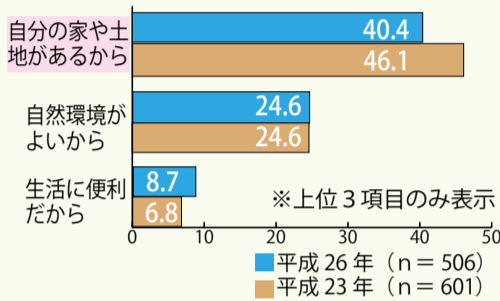
## ① 居住継続意思

居住継続意思（清瀬市に今後も住み続けたいかどうか）を尋ねたところ、「住みたい」が最も多く、「住みたくない」を大きく上回りました。「住みたい」は、前回（71%）と比較すると5%減少しましたが、今後も住みたい理由のなかで「自然環境がよいから」は、前回と同ポイントで、緑豊かな清瀬が皆さんに支持されていることがうかがえます。

問1-1 あなたは、今後とも清瀬市に住みたいと思いますか。 単位：%



問1-2 「住みたい」とお答えの方に伺います。その理由をお聞かせください。 単位：%



緑豊かなきよせが支持されている

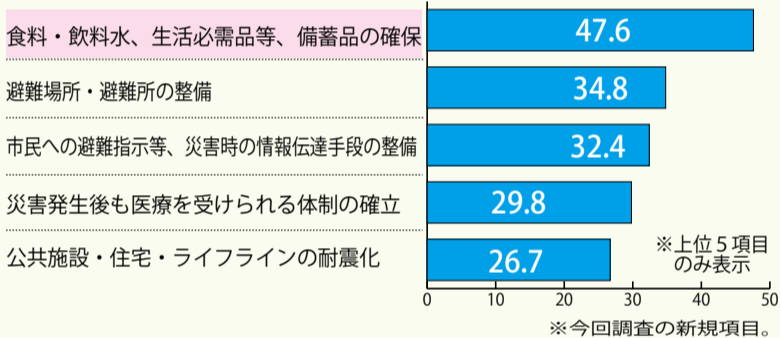


新緑の美しいけやき通り

市では、6月に住民基本台帳から無作為で抽出した20歳以上の男女合わせて千人の方々に協力をいただき、第14回清瀬市政世論調査を行いました。  
この調査は市民の皆さんの、市に対する考えやご意見・ご要望を伺い、今後の市政に反映させ、住みよいまちを作っていくことを目的として3年ごとに行っているものです。今回は市政の各分野から25項目37問を設け意向を尋ねたところ、506人の方々（20～39歳1125件、40～59歳1169件、60歳以上11206件、その他6件）からご回答をいただきました。  
この度、調査結果がまとまりましたので、その概要についてご報告します。なお、調査結果の報告書は、市役所・各図書館・市ホームページでご覧いただけます。  
問合せ 秘書広報課 広報係 ☎97・1808

## ② 防災

問20 防災対策のなかで、市が特に重点を置いて進めるべきだと思うものをお答えください。(複数回答) 単位：%



食料・飲料水、生活必需品等、備蓄品の確保を

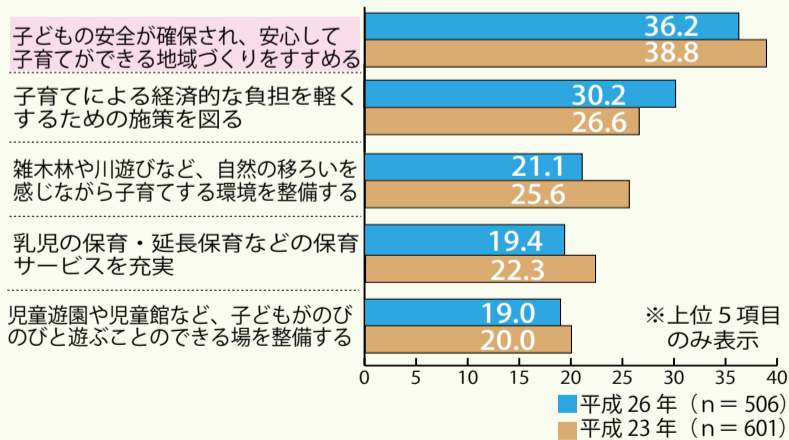


毎年8月に行われる防災訓練での初期消火

市が重点を置くべき防災対策の内容について、前回は防災マップの充実(36・9%)が最も高くなっていましたが、昨年12月に防災マップが完成し、今回は「食料・飲料水、生活必需品等、備蓄品の確保」が最も高く、次いで「避難場所・避難所の整備」となっています。  
なお、「生活必需品等の確保」と回答した方は、20～30代家族数では4人家族の割合が高くなっています。

## ④ 子育て対策

問26 子育てって楽しいな!と思えるまちにしていきたいためには、どのような施策が必要だと思いますか。お答えください。(複数回答) 単位：%



安全・安心な子育て環境を

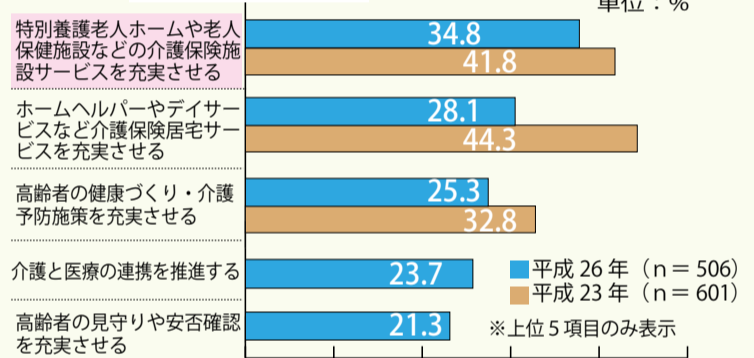


下校時の子どもの安全を守る六小見守り隊

子育てが楽しいと思えるまちにするために必要な施策については、「子どもの安全の確保」「子育てによる経済的負担の軽減」「自然を感じながら子育てする環境整備」など、前回と比較しても、上位3項目の順位に変化は見られません。  
安全・安心な子育て環境を、地域の方々と築くとともに、さまざまなサービスの充実が必要とされています。

## ③ 高齢者福祉

問24 介護保険をはじめ高齢者福祉サービスの充実が求められています。市に力を入れてほしい施策をお答えください。(複数回答) 単位：%



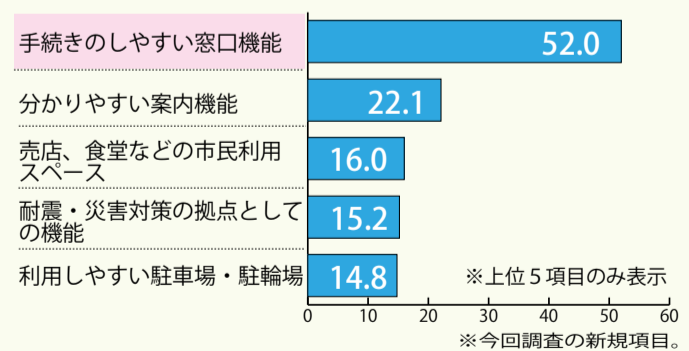
介護保険サービスの充実を

※「介護と医療の連携を推進する」、「高齢者の見守りや安否確認を充実させる」は今回調査の新規項目。

高齢者福祉サービスで力を入れて欲しい施策内容は、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護保険施設サービスを充実させる」「ホームヘルパーやデイサービスなど介護保険居宅サービスを充実させる」と、介護保険サービスの充実を求める割合が高くなっています。  
また、今回新たに選択肢に加わった「介護と医療の連携を推進する」が上位に入り、関係機関の連携によって、安心できるサービスの提供に繋がっていくことが求められています。

## ⑤ 新庁舎

問36 新庁舎について重要と思われる機能をお答えください。(複数回答) 単位：%



手続きしやすい窓口機能を



現在本庁舎1階に配置しているフロアマナージャー

新庁舎について重要と思われる機能は、「手続きのしやすい窓口機能」が最も多く、次いで「分かりやすい案内機能」「売店、食堂などの市民利用スペース」「耐震・災害対策の拠点としての機能」「利用しやすい駐車場・駐輪場」となっています。  
今回の結果を今後の検討資料として活用し、市民の皆さんにとって分かりやすく、利用しやすい新庁舎建設を行います。